

優秀賞 全日本中学生水の作文コンクール中央審査会特別賞

「水の力」

島根県 浜田市立弥栄中学校

一年 横山 綺乃

私の住んでいる弥栄町は、素晴らしい自然がたくさん残っています。澄んだ空気、豊かな緑、そしてきれいな水。

私の父は、そんな環境に恵まれた弥栄町で米作りをしています。無農薬、無科学肥料の有機栽培です。それにくわえて、もう一つの工夫があります。それは、すべての生命の源「海水」です。

父は、夏になると片道二十分以上かけ、美しい浜田の海まで海水をくみにいきます。そして、そのくんだ水を田んぼに直接流しこむのです。

「なぜ、そんな苦勞をして海水をかけるの。」私は不思議に思い、父に聞いたことがあります。父は、海水が素晴らしい働きをもっていることを教えてくれました。

海水はミネラルが豊富に含まれています。塩分（ナトリウム）はもちろん、植物の光合成に必要な重要なミネラルのマグネシウム、そして微量ではありますが何百種類ものミネラル。それらが稲に良い影響を与えます。海水は植物本来の生命力を引き出します。だから茎が固くなり、害虫がつかなくなったり、甘みやうまみの強いとてもおいしい米ができるのです。私は海水の力を知ってとても驚きました。海水のおかげで父のお米は弥栄町でもおいしくて一番になることが多いです。

また、父は海水だけでなく、弥栄の水も素晴らしい水だと教えてくれました。田んぼに流している水は山からわき出てくる山水です。山水はナラやブナなどの広葉樹の落ち葉にろ過されて出てきます。そのため山の土に含まれている栄養を吸い込んで流れてきます。その水は、人にだけでなく植物にも良いのです。この山水と海水という最強コンビで美味しいお米を作ることができるのだそうです。私はそれを聞いて水の力に驚き、うまく利用している父を尊敬するようになりました。

でも、最近海が汚れていると新聞やニュースでよく耳にします。工場や生活排水が流れこんだり、ゴミを海に捨てて帰ったり、事故で燃料もれを起こしたなど、原因は様々です。実際、青くてきれいな浜田の海も海岸にはたくさんゴミがあり、「残念だな」と思います。もし、世界中で同じことが行われていたら、一体どれだけ汚染されているのでしょうか。汚染された海で育ったプランクトンを魚が食べて、その魚を私たち人間が食べています。考えてみると恐ろしいことです。そしてこのことは海の水だけではないと思います。

先週、学校でスケッチ会がありました。学校のふもとに広がる水田で全校生徒が「弥栄の自然」を描きました。描きながら思い出しました。きれいな水に住んでいるというモリアオがエルやサワガニがここにはたくさんいること。そしてこのきれいな水のおかげでおいしいお米がとれることを。

私たち弥栄に住んでいる人は山からわき出た水を一番最初に使うことができます。もし私たちがこの水を汚したらきれいな水にしか住めない動植物は死んでしまいます。おいしいお米もとれません。そして、その水は浜田に流れていき、海も汚れます。

「水はつながっているんだ。だから、皆が水を汚さないようにしていかなくてはいけないんだ」と改めて思いました。考えてみると、私達は小学校のころから、川の水を汚さないように、汚れのひどい食器はちり紙で拭いて返すことになっています。また、中学校でも、水を汚さない工夫がされています。例えば、川に直接流す流しでは石けんを使ったり雑巾を洗った水は流しません。小さなことです。弥栄のきれいな水を保つのにこういった心がけが必要ではないかと感じます。

私は「水の力」についてもっと学び、未来にきれいな水を残すためには何ができるのかを考え、行動していきたいです。